

養殖業成長産業化推進協議会
2024年3月5日

令和5年度 養殖業成長産業化推進事業における 今年度の動き

目次

- | | | |
|---|-------------------|------|
| 1 | 事業の目的及び協議会の経過について | P. 2 |
| 2 | 行動計画の推進状況について | P. 3 |
| 3 | マーケットイン型養殖の取組事例 | P. 5 |

(一社) 全国海水養魚協会



水産庁補助事業 令和5年度養殖業成長産業化行動計画推進事業

1 事業の目的及び協議会の経過について

◆ 事業の目的

平成30年6月1日に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」における水産政策の改革では、国は、国内外の需要を見据えて戦略的養殖品目を設定するとともに、生産から販売・輸出に至る総合戦略を立てた上で、養殖業の振興に本格的に取り組むこととしています。

これを受け、国は「養殖業成長産業化総合戦略」を策定することとし、この総合戦略を実効性あるものにしていくため、養殖業及び養殖業のステークホルダーが、養殖業に係る生産から販売・輸出に至るサプライチェーンの課題について国に対し助言する場として養殖業成長産業化推進協議会を発足しました。

第1～4回協議会：魚類養殖の成長産業化に向けた課題整理を実施。

養殖業成長産業化総合戦略（魚類）の公表

第5～7回協議会：貝類・藻類養殖の成長産業化に向けた課題整理を実施。

養殖業成長産業化総合戦略（無給餌）の改定

第7～8回協議会：戦略的養殖品目別の行動計画案について協議。

養殖品目別行動計画を策定

第9回協議会：行動計画の推進への取組状況報告

「優良系統の保護等に関するガイドライン」、「養殖業における営業秘密の保護ガイドライン」を策定

第10回協議会（本協議会）：行動計画の推進への取組状況報告

◆ 今年度の事業における取組計画について

- ① 行動計画の普及啓発活動（説明会を開催）：各養殖産地において行動計画の説明会を実施
- ② マーケットイン型養殖の取り組み事例調査
全国各地のマーケットイン型養殖に取り組んでいる養殖業者に対して、その取り組みについてヒアリングの調査を実施。
- ③ ブリ人工種苗増産にかかる勉強会：昨年度のブリ人工種苗増産にかかる勉強会を引き続き実施

2 行動計画の推進状況について

① 行動計画の普及啓発活動（説明会を開催）

行動計画の普及啓発活動は、昨年度、魚類養殖産地を中心に開催したため、今年度は無給餌養殖産地（北海道、青森、岩手、宮城）を中心に開催を予定した。しかし、諸事情により、今年度は、説明会の開催が難しい状況であった。そのため、来年度改めて無給餌養殖産地での説明会を実施する予定。

一方で、本事業とは別事業において、以下の魚類養殖産地に対し、NPO法人水産業漁村活性化推進機構で実施している漁業構造改革総合対策事業のマーケットイン型養殖業等実証事業の説明会にあわせ、行動計画の説明・成長産業化の推進に資する情報の提供を行うため、同行。

◆対象

養殖業者、漁業協同組合、行政その他養殖関係者（水産コンサルや金融機関等）等

◆開催地

開催地		日程
長崎県	長崎市	6月28日～6月29日
	佐世保市	
鹿児島県	東町	7月19日～7月20日
	垂水市 (鹿屋)	
高知県	大谷	7月25日～7月27日
	宿毛	
三重県		9月13日

② マーケットイン型養殖の取り組み事例調査

NPO法人水産業漁村活性化推進機構で実施している漁業構造改革総合対策事業のマーケットイン型養殖業等実証事業を利用した養殖業者などを対象に先進的な取り組みを調査しました。

◆調査対象概要

県	対象
愛媛県	株式会社タイチ
	赤坂水産有限会社
	株式会社JABURO
	株式会社UTAKICHI
鹿児島県	養殖業者の新たな連携の取組
	養殖業者の生産・流通・販売の取組

② マーケットイン型養殖の取り組み事例調査

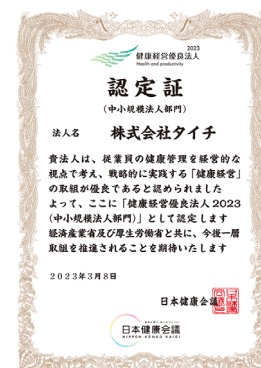
生産者型企业（マダイ等） 愛媛県

株式会社タイチ 取組のポイント

マーケットインの特徴	◆ マーケットのニーズに合わせた食味等高品質な魚を周年出荷できる生産体制を構築することで、全国の量販や小売り、個別店舗など地域や業種等様々なマーケットへアクセス。 ◆ MEL認証の取得やアニマルウェルフェアへの配慮、低魚粉飼料の利用推進などの取組を行うことで、養殖における新たな価値を発信し、マーケットの獲得を進めている。
加工・販売	◆ 活魚での出荷が多いものの、マーケットの様々なニーズに合わせて、複数の加工業者と連携し、鮮魚、1次加工での販売も実施。 ◆ 末端の販売及び消費者と繋がった形で販売を行っているため、新たなニーズ等にも随時対応が可能となっており、新規販路も販売及び消費者側からの問い合わせが有り。 ◆ アメリカ、カナダ、タイ、シンガポール、台湾など海外にも商社等を通して輸出。
生産	◆ 現在、年間約11万尾のマダイを生産。 ◆ マーケットのニーズに合わせ独自の餌（100%天然プレミックス）で品質を向上。 ◆ 生産性の向上及び就労環境への配慮から、餌ロボによる給餌を実施中。 ◆ 持続的な養殖を行うために、海洋環境への配慮として、藻場作り、森林整備、海のゴミ拾い活動などを実施。 ◆ 労働環境への配慮として、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」の取組を実施。



2021年6月取得



産地事業者協業（マダイ）

赤坂水産有限会社 取組のポイント

マーケットインの特徴

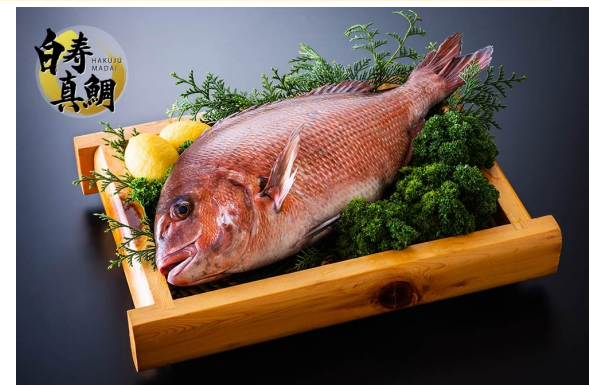
- ◆ 規模の拡大により、多様なサイズの魚を生産できる体制を構築。また、自社の活魚車を使用することで、商社を通さず、直接市場や販売店・消費者と繋がった生産・流通体制を構築。
- ◆ 低魚粉飼料の「白寿真鯛」や無魚粉飼料で育てた「白寿真鯛0」をアメリカのエシカル消費市場に向けに生産し、マーケットの開拓及び生産の連携体制を構築。

流通・加工

- ◆ 自前の活魚車を活用し、直接消費地に輸送可能な体制を構築しているため、365日即日納品が実現。また、トレーサビリティの確保、市場ニーズのフィードバックが可能。
- ◆ 「津本式」の脱血を行うことで、生鮮での長期保管・利用・熟成が可能。遠方の飲食店や海外への鮮魚出荷に活用。空輸で海外に向けた際、消費者が口にする約5日目に熟成が完了。
- ◆ 関東、関西など遠方の活魚需要に応えるため、複数の物流業者と連携。

生産

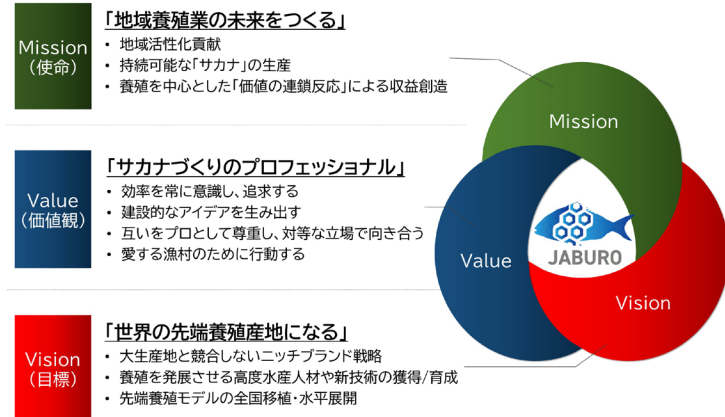
- ◆ 現在、年間約25万尾のマダイを生産。
- ◆ 魚粉に依存しない養殖生産技術を確立。
- ◆ ゴマ入り飼料及び無魚粉飼料によるブランド化（白寿真鯛等）を実施。
- ◆ AI・IoT給餌機の利用により、生産性の向上及び就労環境の改善が実現。
- ◆ 持続可能な養殖を行うために、海洋環境への配慮として、水質改善剤を定期的に散布する取り組みを実施。



産地事業者協業（マダイ）

株式会社JABURO 取組のポイント

マーケットインの特徴	◆ 養殖業の先進化を目標とした地域の養殖業者と連携し、魚粉0飼料で育てた「白寿真鯛0」を冷凍フィレ加工後の商品として、国内外のマーケットを開拓中。 ◆ 今後、更に輸出拡大を進めるために、インド等の新たなマーケットの開拓及び生産の連携体制を推進中。
流通・加工	◆ 一般的には活魚・鮮魚が中心の真鯛の出荷を、産地での冷凍加工出荷に切り替え、「2024年問題」へ対応するとともに、お盆や年末の爆発的な需要に対応可能な計画生産体制を確立 ◆ 高品質冷凍フィレ加工の商品による時間制限の緩和対策を行うことで、チルドでの輸出が難しかった新たなマーケット開拓を推進。 ◆ スライス加工や炙り加工など、マーケットの様々なニーズに応えるため、複数の加工業者と連携し、生食用冷凍加工した真鯛の出荷量を拡大中。
生産	◆ 無魚粉飼料によるブランド化（白寿真鯛等）を実施。 ◆ 現在、養殖業者3社が連携し、「白寿真鯛0」は年間約10万尾を生産。 ◆ 「白寿マダイ0」の生産は、3社の養殖業者が連携し、餌や技術の共有を行い一般的な魚粉含有率の飼料と比較しても増肉係数で殆ど差がない（約+0.1）。 ◆ 大型生け簀の導入やAI・IoT給餌機の利用により、生産性の向上及び就労環境の改善が実現。



産地事業者協業（ブリ）

株式会社UTAKICHI 取組のポイント

マーケットインの特徴	◆ 地域内で複数の養殖業者と連携、また、他県の養殖業者等とも生産、加工、販売において連携しており、安定した生産・加工・販売の体制を構築。 ◆ 一定のロットを確保しつつ安定した生産・加工を行うことで、量販店や外食チェーンとの直接取引を実施。また、販売店等と直接つながることにより、マーケットのニーズに合わせた生産・加工が可能。
加工・販売	◆ 加工・販売は約30万尾/年。海外輸出に対応した加工にも対応できる体制を構築しており、約8万尾/年を出荷。
生産	◆ 生産は各地域の養殖業者が行っており、UTAKICHIで取り扱う魚については、餌の統一などによる均質化を実施。 ◆ 地域内及びその他地域で約30万尾ブリの生産を行っており、餌や販売価格の安定化を実現。 ◆ 人工種苗の利用を推進しており、連携している会社と併せると2023年で約20万尾（自社グループの生産者では10万尾）を導入。

